

介護によるストレスをためない ～家族介護教室～

お年寄りを介護する家族の心構えについて学ぶ「家族介護教室」が2月23日、岸本保健福祉センターで開かれました。

この教室は、お年寄りを介護する家族の心の健康について考えるきっかけ作りのため、伯耆町障がい老人を支える家族の会が、年2回開催しています。

この日は、鳥取大学大学院医学系研究科の濱田実央さんが「ひとり抱え込まない」と題し講演。介護によるストレスをためないコツ「お願い上手になる方法」を紹介したほか、介護する側に立った心理テストを行いました。心理テストの結果、参加者の大半が消極的で、協力を求めることを躊躇する傾向にあることがわかりました。

参加者は、時折メモを取りながら、自分の意思を無理なく伝える方法などを学習しました。



ストレスをためないコツを学ぶ参加者

ともに生き、学びまちづくりを目指し ～社会教育研究大会～

鳥取西部地区町村社会教育研究協議会が2月26日、農村環境改善センターで社会教育研究大会を開催しました。

この大会は、同協議会が地域での社会教育や公民館活動の充実を目指して毎年開催しており、この日も西伯郡と日野郡の教育関係者など多くの人が集まりました。



取り組み事例を紹介する発表者

始めに、「地域の活力と連携」をテーマに、パネルフォーラムを実施。パネリストの伯耆町・大山町・日吉津村の住民3名が、地域活性化の取り組み事例を発表しました。その後、講演会が開かれ、パネルフォーラムにコーディネーターとして参加した、茨城大学生涯学習教育研究センター長谷川幸介准教授が「無縁社会に立ち向かう」と題し、環境の変化に伴う新たな教育の方向性などについて話しました。

参加者は、長谷川准教授の話に熱心に耳を傾け、社会教育の重要性について理解を深めていました。

さらなる活躍を期待 ～日本海新聞ふるさと大賞～

特定非営利活動法人伯耆みらいと岸本中学校3年生の本田慎さんが、日本海新聞ふるさと大賞2011を受賞し、表彰式が3月5日、伯耆町役場で開かれました。

この賞は、日本海新聞ふるさと創り事業団が、スポーツ振興と地域発展に寄与した個人、団体を表彰するものです。

特定非営利活動法人伯耆みらいは、障がい者が自立した日常生活と社会活動を営むための支援を継続して実施しているとして、地域貢献賞を受賞しました。また、本田さんは、春季ジュニア陸上1500mでの優勝や、都道府県対抗男子駅伝競走大会出場などさまざまな大会で活躍したとして、スポーツ功労賞を受賞しました。

森安町長は、「受賞は日頃の努力によるものです。これからのさらなる活躍を期待しています」と祝辞を述べました。



ふるさと大賞2011の受賞者のみなさん

音楽で会場がひとつに ～第7回伯耆町民音楽祭～

町内の音楽グループが合唱や合奏を披露する、伯耆町民音楽祭が3月4日、鬼の館で開かれました。

この音楽祭は、町内のアマチュア団体に発表の場を提供することや、他団体の発表を直接視聴し、新しい発見につなげてもらうこと、教育委員会が、毎年この時期に開催しています。

今年は、大正琴のグループや小学生によるダンスチーム、合唱団など9団体が出場し、全26曲を披露しました。来場者は、それぞれの特色ある発表に耳を傾け、大きな拍手を送りました。

この音楽祭の様子は、4月7日に伯耆町有線テレビジョン放送で放送します。ぜひご覧ください。



美しいハーモニーを披露する合唱団

防災活動に大活躍 ～新しい消防ポンプ車配備～

伯耆町消防団第7分団に新しい消防ポンプ車が配備され、3月7日に引き渡し式が開かれました。

これは、これまで第7分団が使用していた消防ポンプ車が老朽化したため、町が電源立地地域対策交付金により新たに購入したものです。

式では、森安町長から木村浩団長へ目録が手渡され、さらに木村団長から宅野伸一第7分団長へ引き渡されました。式の後、団員はさつそく車両に乗り込み、操作方法の指導を受け、放水テストを行いました。

宅野分団長は、「消防車の機能を早く習得し、地域防災に尽力したい」と決意を新たにしています。



新しく配備された消防ポンプ車